

# 行雲流水

No.317 令和5年6月14日発行

いっそくととおい  
一足飛びに遠くには行けないものだ

校長 寒河江 正人

「**小事**を**軽んず**ることなく、**地道**に**歩む**者は、やがて「**大事**」を**成し遂**げる。」

生徒諸君。

遠い山頂だけを見て、一気にそこへ到達したがる者は、**自分が立つ足下**が見えなくなる。  
そのために、足下の石ころやわずかな段差にもつまずいたり、転んだりすることになる。

私たちの人生においても、同じようなことが起こりがちなものだ。

「**大事を成さねば**」とあまりに気負い過ぎて、**壮大な夢や目標を立てる**のはいいのだが、  
**今の現実との乖離**（かいり：結びつきがはなれること）があまりに大きいのは考えものだ。

**夢や目標をもつ**のは、あくまでも「**自分の進む方向性を見定めるため**」のものである。  
**大まかに進むルート**をつかみ見通したら、あとは**足下（今の現実）**をしっかりと見つめて、  
**今やるべきこと**をコツコツと地道にやって、「**確かな事実**」を積み上げていくのみである。  
時折、**遠い先にある夢や目標**を見やって、**進んでいる方向性**が、ずれていないかどうかを  
確認することも大切だ。

ぜん  
禪の言葉で、「**脚下照顧**」という言葉がある。

「**今の自分自身を反省して、まず身近なことに気をつけなさい。**」という戒めの言葉である。  
たとえば、本校みんなで取り組んでいる「**三点固定**」。あなたは、できていますか？

- ① **朝、自分が決めた時刻に起きて、時間と心に余裕をもって一日をスタートする。**
  - ② **自分が決めた時刻に「家庭学習」を始め、決めた内容を、決めた時間分をやりきる。**
  - ③ **夜更かしせず、質の良い睡眠時間が確保できるように、自分が決めた時刻に就寝する。**
- その生活リズムは、たとえ大会の直前であっても、何も変わらない。

まずは、「**自分の足下（今の現実）**」から目を逸らさないためにも、どうか毎日帰宅したら、  
玄関に脱いだあなたの靴をそろえてくださいね。

そして、翌朝、出かけるとき、今日の確かな一歩を歩み出そうとする決意をしましょう。  
「**ほんの小さなことに思えること**」が、実は「**夢や目標に向かう原動力**」となるのですよ。